貯 法:室温保存

使用期限:外箱等に表示の使用期限内に使用すること

注 意:【取扱い上の注意】の項参照

	28噴霧用	56噴霧用
承認番号	21800AMZ10117000	21900AMX00311000
薬価収載	2012年 6 月	2012年 6 月
販売開始	2006年7月	2007年 7 月

定量噴霧式鼻過敏症治療剤

フルチカゾン点鼻液50μg「NikP」28噴霧用 フルチカゾン点鼻液50μg「NikP」56噴霧用

Fluticasone

フルチカゾンプロピオン酸エステル点鼻液

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

- 1. 有効な抗菌剤の存在しない感染症,全身の真菌症の患者 [症状を増悪するおそれがある]
- 2. 本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者

【組成・性状】

品名	容量 成分・含量			
m 1	(1容器中)	1 容器中	1 回噴	霧中
フルチカゾン点鼻液50μg	4 mL	フルチカゾンプロピオ		
「NikP」28噴霧用	4 IIIL	ン酸エステル2.04mg	フルチカゾ	ンプロピ
フルチカゾン点鼻液50μg	8 mL	フルチカゾンプロピオ	オン酸エス	テル50μg
「NikP」56噴霧用	8 IIIL	ン酸エステル4.08mg		
添加物		外観性状		рН
ベンザルコニウム塩化物、セルロー		定量噴霧式の点鼻液	夜であり,	
ス・CMC-Na, グリセリン, プロピレ		噴射するとき,微約	⊞な霧状と	5.0~7.0
ングリコール, クエン酸,	クエン酸	なる。内容物は, 自	自色の懸濁	3.0 - 7.0
Na, 香料, グリセリン脂肪	酸エステル	液で、特異なにおい	がある。	

【効能・効果】

アレルギー性鼻炎, 血管運動性鼻炎

【用法・用量】

成人は、通常 1 回各鼻腔に 1 噴霧(フルチカゾンプロピオン酸エステルとして $50\mu g$)を 1 日 2 回投与する。なお、症状により適宜増減するが、1 日の最大投与量は、8 噴霧を限度とする。

*<用法・用量に関連する使用上の注意>

本剤の十分な臨床効果を得るためには継続的に使用すること。

【使用上の注意】

- 1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)
- (1) 鼻咽喉感染症の患者 [症状を増悪するおそれがある]
- (2) 反復性鼻出血の患者 [出血を増悪するおそれがある]

2. 重要な基本的注意

- (1) **重症な肥厚性鼻炎や鼻茸の患者**では、本剤の鼻腔内での作用を確実にするため、これらの症状がある程度減少するよう他の療法を併用するとよい。
- (2)本剤の投与期間中に**鼻症状の悪化**がみられた場合には、抗 ヒスタミン剤あるいは、全身性ステロイド剤を短期間併用 し、症状の軽減にあわせて併用薬剤を徐々に減量すること。
- (3) 本剤には持続効果が認められるので、とくに**通年性の患者** において長期に使用する場合は、症状の改善状態が持続するようであれば、本剤の減量又は休薬につとめること。

- *(4)季節性の疾患に対しては、その好発期を考慮し初期治療を 開始し、抗原との接触がなくなるまで続けることが望まし い。
 - (5) **全身性ステロイド剤の減量**は本剤の吸入開始後症状の安定 をみて徐々に行う。減量にあたっては一般のステロイド剤 の減量法に準ずる。
 - (6) 長期又は大量の全身性ステロイド療法を受けている患者では副腎皮質機能不全が考えられるので、全身性ステロイド 剤の減量中並びに離脱後も副腎皮質機能検査を行い、外傷、 手術、重症感染症等の侵襲には十分に注意を払うこと。ま た必要があれば一時的に全身性ステロイド剤の増量を行う こと。
 - (7) 全身性ステロイド剤の減量並びに離脱に伴って, 気管支喘息, ときに湿疹, 蕁麻疹, 眩暈, 動悸, 倦怠感, 顔のほてり, 結膜炎等の症状が発現・増悪することがある (このような症状があらわれた場合には適切な処置を行うこと)。
- **(8)全身性ステロイド剤と比較し可能性は低いが、点鼻ステロイド剤の投与により全身性の作用(クッシング症候群、クッシング様症状、副腎皮質機能抑制、小児の成長遅延、骨密度の低下、白内障、緑内障、中心性漿液性網脈絡膜症を含む)が発現する可能性がある。特に長期間、大量投与の場合には定期的に検査を行い、全身性の作用が認められた場合には適切な処置を行うこと。

3. 相互作用

本剤は, 主として肝チトクロームP-450 3A4 (CYP3A4) で 代謝される。

併用注意 (併用に注意すること)

	· ·	
薬剤名等	臨床症状·措置方法	機序・危険因子
CYP3A4阻 害作用を有 する薬剤 リトナビ ル等	副腎皮質身投症状が 関を全様の可能 場合としたががある。 特合とわれる トゾステリカー がある。 特のでは、カンテリンテリー がががからない。 ドグスよくに、 がががからない。 ドグスよくに、 がががからない。 がががからない。 がががからない。 がががからない。 がでのののがでは、 がでのののがでは、 はいいののがでは、 はいいののがでは、 はいいののがでは、 はいいののがでは、 はいいののがでは、 はいいののがでは、 はいいのがでは、 はいいのがでは、 はいいののは、 はいいのは、 はいのは、 はいいのは、 はいのは、 はいのは、 はいのは、 はいのは、 はいのは、 はいのは、 はいのは、 はいのは、 はいのは、 はいのいのは、 はいのいのは、 はいのは、 はいのは、 はいのは、 はいのは、 はいのは、 はいのは、 はいのは、 はいのい	CYP3A4による代謝が出ることによる代謝が出書されるの血質を対した。 が阻害を利力の可能を対した。 でYP3A4によることでは、 が上昇がある。 リトデンスをは、 でYP3A4阻害ナンプルを 有し、チャエスたい、 でYP3A4限トンプルを 有し、チャエスにい、 でYP3A4限に でアプルスを がある。 リトグラスを がある。 リトグラスを がある。 でYP3A4限に でインシテなに、 でインシテなに、 でアルスにいる。 の大きなの大い。 では、 では、 の大きなの大い。 でいる。 のたいる。 のたいる。 のたいる。 のたいる。 のたいる。 のたいる。 のたいる。

4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1) 重大な副作用 (頻度不明)

*アナフィラキシー

アナフィラキシー (呼吸困難,全身潮紅,血管浮腫,蕁麻疹等)があらわれることがあるので,観察を十分に行い, 異常が認められた場合には本剤の投与を中止し,適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

以下のような副作用があらわれた場合には,症状に応じて 適切な処置を行うこと。

		• • •		
		頻度不明		
	過敏症	発疹, 浮腫		
* *	鼻 腔	鼻症状 (刺激感,疼痛,乾燥感),鼻出血, 不快臭,鼻中隔穿孔,鼻潰瘍		
	口腔並び に呼吸器	咽喉頭症状 (刺激感, 乾燥感), 不快な味		
	精神神経系	頭痛, 振戦, 睡眠障害		
	その他	眼圧上昇		

注) このような場合には投与を中止すること。

5. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので、患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること [本薬は皮下投与による動物実験(ラット,ウサギ)で副腎皮質ステロイド剤に共通した奇形発生,胎児の発育抑制がみられ,これらの所見はウサギにおいて低い用量で出現することが報告されている]。

7. 小児等への投与

小児等に対する安全性は確立していない。

8. 適用上の注意

鼻腔内噴霧用にのみ使用すること。

9. その他の注意

レセルピン系製剤, α-メチルドパ製剤等の降圧剤には, 副作用として鼻閉がみられることがある。このような降圧 剤服用中のアレルギー性鼻炎又は血管運動性鼻炎の患者に, 本剤を投与すると,鼻閉症状に対する本剤の効果が隠蔽さ れるおそれがあるので,臨床的観察を十分に行いながら投 与すること。

【薬効薬理】

薬力学的試験による生物学的同等性試験

(1) 鼻腔抵抗抑制作用

Ovalbumin及び水酸化アルミニウムゲルで感作したモルモットを用いて、本薬と標準薬を点鼻投与して鼻腔抵抗増加率を比較検討した結果、両剤は抗原誘発遅発型の鼻腔抵抗増加を有意に抑制した。また、両剤間の効果に有意差は認められず、両剤の生物学的同等性が確認された。1)

(2)血管透過性亢進抑制作用

Ovalbuminで能動感作したモルモットを用いて、本薬と標準薬を点鼻投与して鼻汁中色素漏出量を比較検討した結果,両剤は鼻粘膜血管透過性亢進を有意に抑制した。また,両剤間の効果に有意差は認められず,両剤の生物学的同等性が確認された。1)

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名:フルチカゾンプロピオン酸エステル (Fluticasone Propionate) 化学名:S-Fluoromethyl 6α,9α-difluoro-11β-hydroxy-16αmethyl-3-oxo-17α-propionyloxyandrost-1,4-diene-17βcarbothioate

分子式:C₂₅H₃₁F₃O₅S 分子量:500.57

構造式:

性 状:白色の微細な粉末である。ジメチルスルホキシドに溶けやすく、アセトニトリルにやや溶けにくく、メタノール又はエタノール (99.5) に溶けにくく、水にほとんど溶けない。

【取扱い上の注意】

1. 取扱い上の注意

- (1) 定められた用法・用量を厳重に守るよう、患者に指示すること。
- (2) 患者には添付の携帯袋及び鼻用定量噴霧器の使用説明書を 渡し、使用方法を指導すること。
- (3) 用時振盪すること。

2. 安定性試験

本品につき加速試験 (40°C,相対湿度75%,6ヵ月)を行った結果、フルチカゾン点鼻液50 μ g「NikP」28噴霧用及びフルチカゾン点鼻液50 μ g「NikP」56噴霧用は、通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。 2

【包 装】

フルチカゾン点鼻液50 µg「NikP」28噴霧用: 4 mL×10 フルチカゾン点鼻液50 µg「NikP」56噴霧用: 8 mL×10

【主要文献】

1) 日医工ファーマ(株) 社内資料:生物学的同等性試験

2) 日医工ファーマ(株) 社内資料:安定性試験

【文献請求先】

主要文献欄に記載の文献・社内資料は下記にご請求下さい。 日医工株式会社 お客様サポートセンター 〒930-8583 富山市総曲輪1丁目6番21

Fax (076) 442-8948



製造販売元日医エファーマ株式会社